



豊かな子

明るく、思いやりのある子

夢に向かって、自ら学ぶ子

身体を鍛え、最後までやりぬく子



腰を据えて子の**人権感覚**を育てる

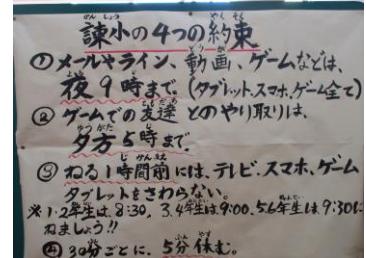
2学期制の良さ（子どもに向き合う時間的余裕）を生かして、11月17日から12月17日までのひと月間、諫小人権月間の取組を進めています。この月間のねらいは、

- 他を思いやる心を育て、優しい言動で人と接する態度を育てる 「認め合う仲間の能力」
 - 差別をしない、差別をさせない心を育て、自他の生命を尊重する態度を養う 「美しい心の能力」
 - いじめや差別のない学級・学校をつくる 「力を合わせての能力」

この期間、様々な仕掛け、取組を準備し、子ども達の人間性、人権感覚の高まりを目指しています。

【全校で取組む活動】

- ①思いやりの木：してもらったり、言ってもらったりしてうれしかったことを模造紙にまとめ、人権集会でステージ掲示に使うなどして、人と人との温かいつながりを感じる校内掲示にする。
 - ②諫小メディア宣言：代表委員会で話し合い、正しく付き合うための4つの約束を採択しました。全校みんなで守っていきたいと思います。正しい使い方として、SNSで知らない人と連絡を取りあつたりしてはいけないこと、お友達の陰口等を書き込んだりないことも指導しています。
 - ③視聴覚教材を活用した人権学習：市立図書館、市人権擁護委員会、法務局等どもの実態やニーズに応じた資料を選択し、視聴させます。



- ④人権標語づくり：一人一人、人権尊重に関する標語づくりに取り組みます。
 - ⑤人権チェックシートの活用：人権尊重の視点から、自分の行動を具体的行動ごとに振り返り、「みんなが幸せに生きていくために必要なこと」を考える。※今年度、新しい取組です。保護者の皆様と一緒に考えてみたい内容です。
 - ⑥道徳授業の実施：「思いやり・親切」「信頼・友情」
 - ⑦児童個人面談：一人一人の心や思いに寄り添い、不安や悩みの解消に努めます。

【人権集会「なかよし集会」】

- ⑧児童会主導で、人権集会を組立て、進行していきます。子どもが主体的に人権について感じ、考えます。

- ・諫小なかよし宣言
 - ・人権のうた「ありがとうの花」
 - ・人権ワークショップ^①
「誕生日チェーン」「インパルスゲーム」等
 - ・校長講話



【4年生・長崎平和学習】

4日（木）、平和公園、爆心地公園、原爆資料館、城山小学校をめぐり、平和の尊さ、生命尊重の心、支え合って生きていくことを、子どもなりに感じ取りました。



持久走を通して、子を育てる（子が育つ）

寒さが増す季節となりましたが、子どもたちは体育の授業や朝の活動で、マラソン大会に向けた持久走の練習に懸命に取り組んでいます。中には、「走るのは苦手」「マラソンは嫌だ」と感じているお子さんもいるかもしれません。しかし、本校では、この持久走を単なる体力測定や競争としてではなく、お子様一人ひとりの**心と体の成長を促す「人づくり」**のための大切な機会と捉え、取り組んでおります。



1. 自己と向き合い、粘り強さを育む教育的価値

持久走に取り組むことの最大の教育的価値は、**自分自身を深く理解し、困難に立ち向かう力を育む**点にあります。

一つ目の目的は、体育の授業などで自己の体力向上を図ってきた成果を発揮する場とすることです。そして、それ以上に大切なのは、**苦しくてもくじけないねばり強い態度を育てる**ことです。

持久走を通して、子どもたちは以下の力を培うことが期待されます。

- ・**目標に向かう努力と自己肯定**：自分の目標を立て、目標に向かって努力することを通して、自己実現を図ろうとします。この過程を通じて、自己理解と自己肯定の意識を高めます。
- ・**自律と自立の精神**：自分のペースを把握し、最後まで走り切ることを目指す中で、「自立」し、「自律」する精神を育てます。

2. 仲間と共に高め合う「人づくり」の価値

持久走は個人競技のように見えますが、その練習や本番の過程は、仲間との関わりの中で豊かな人間性を育む機会でもあります。

- ・**励まし合い、共に努力する大切さ**：練習の過程で、子どもたちは互いの頑張りを励まし認め合うことや、仲間と共に努力することの大切さを体感します。
- ・**より良い人間関係の形成**：友達の頑張りを応援し、互いに認め合い、高め合うことを通して、人間関係をよりよく形成しようとすることが期待されます（協働のためのコミュニケーション）。これは「自他の尊重」の精神に基づくものです。走る速さや順位に関わらず、本校では完走者全員に完走証を授与し、目標に向かって努力した過程を大切にしています。

3. 保護者の皆様へのお願い

本校では、持久走を体つくり運動の中の多様な動きをつくる運動や動きを持続する運動として、児童の実態に応じて体育の授業時間に取り入れています。お子様が苦手意識を持っている場合でも、目標を持って練習に取り組む姿をぜひ家庭でも温かく見守り、励ましの言葉をかけていただけると幸いです。

この持久走への取り組みが、子どもたちの健やかな体と、社会で生きていくための粘り強い心を育む機会となるよう、ご理解とご協力をお願いします。

「健康を保持し、元気いっぱいの冬を過ごしましょう」

冬至とは、1年で最も太陽が出ている時間が短くなる日のことです。

立春や春分・夏至のように1年を24等分にして季節を表す「二十四節気」の一つで、日本ではかぼちゃを食べたり柚子（ゆず）湯に入ったりして過ごすのが一般的です。日に日に短くなっていた日照時間が冬至を境に長くなっていくことから、古代中国をはじめとした世界各国では「太陽が生まれ変わる日」とされており、当時から新年がスタートする日として祝う風習があったそうです。

